



アジアのインフラファイナンス

河 西 洋 文 CMA・CIIA

(証券アナリストジャーナル編集委員会委員)

1. はじめに

AIIB (注1) の設立に関するニュースは記憶に新しいところであるが、アジアでのインフラ整備の重要性については様々な機会で論じられている。アジア地域が潜在力を開花させ、成長を持続するには、膨大なインフラ整備とそれを賄う資金が必要と言われており、また、世界のインフラ投資の中でもアジアの占める割合は高まっていくと予想されている。

この膨大な潜在需要は日本の企業にとっても大きなビジネスチャンスとして捉えられており、日本政府も2015年5月に「今後5年間で従来の約30%増となる、約1,100億ドルの「質の高いインフラ投資」をアジア地域に提供していく」ことを日本の成長戦略の一つとして掲げている。

2010～20年でアジアで8兆ドル超のインフラ需要があるというADB (アジア開発銀行研究所) の数字 (注2) はよく引用されるが、最近では2015～20年で6.5兆ドル、2015～25年では14.3兆ドルの需要があると推計する従来の金額

を大幅に上回る試算 (注3) もある。こういった需要をファイナンスするには莫大な資金が必要であり、その規模は毎年1兆ドルにもなると予測されている。

本稿では、世界の投資家、とりわけ日本を含むアジアの機関投資家にとっては大きな潜在的投資機会であるアジアのインフラ投資について概観し、ファイナンス面での現状や課題についてまとめてみることにしたい。

2. アジアのインフラ投資とインフラファイナンスの概況

世界経済フォーラムの国際競争力指標の一つであるインフラの整備状況からも見て取れる通り、アジアでは香港、シンガポールなどの先進国・地域ではインフラの水準は高いものの、途上国ではインフラの整備状況は遅れており、成長に向け整備が期待されている (図表1)。これらの国でのインフラ需要についてはいくつかの推計があるが、ADBによる国別の需要の試算を併せ

(注1) Asian Infrastructure Investment Bank (アジアインフラ投資銀行)。

(注2) Biswa Nath Bhattacharyay, “Estimating Demand for Infrastructure in Energy, Transport, Telecommunications, Water and Sanitation in Asia and the Pacific: 2010-2020”, ADBI Working Paper 248.

(注3) みずほ総合研究所「内外経済の中期見通し」15年7月24日。